

〈仙台支部〉
東北発・国内初！
ある大学から「魅力」の発信

ある金曜の昼、とあるキャンパス内の学生食堂に足を運ぶと午前の講義を終え昼食を楽しもうとする学生達でいっぱいだった。通路にも行列ができるほどの人混み。

学生達の目的は「ランチ」だけではない。学食の一角に設けられたスタジオ内の生放送が目当てでもあるのだ。

仙台市の中心に「東北福祉大学」がある。

福祉を希望している学生なら、より充実した研究がしたいと一度は憧れる大学である。幼児施設や福祉施設を兼ね備え、自治体と連携した取組も盛んで、学生はのびのびと勉学に励むことができる。

また研究業績と併せ、スポーツでも数々の輝かしい記録を生み、各界でプロとして活躍している有名な選手を数多く輩出していることでも名高い大学だ。

そのような魅力的な大学が、キャンパス内にFMラジオの「サテライトスタジオ」を開設し、さらに注目を集めている。

今年四月からの毎週金曜日、大学や大学生の旬な話題を発信している。放送範囲は宮城県内のみならず、東北地方

及び新潟県を含む七県にわたる。

パーソナリティーは「遠藤八郎氏」。毎回ゲストに特色ある研究をしている教員を迎え、正午からの五〇分間、実に様々なテーマで楽しい時間が流れる。

遠藤氏は東北福祉大学で言語コミュニケーション、言語表現法、情報社会学及び国際教育学の教授として、また仙台市内の中学・高校でも現役で教壇に立っている日本一多忙な先生である。もちろん、この時間のラジオ・パーソナリティーとしては、祝日も関係ない。

放送時間帯には、スタジオ前に特別に設けられた客席から自由にスタジオ内の様子を見ることができ、放送の模様は食堂内のテレビや携帯電話（FOMA）での視聴も可能だ。

また、客席に座れない学生でも学食内のテレビでスタジオ内の様子を見ることができ、学食内は大変な混雑ぶりである。

スタジオ内にはリスナーからのメールやFAXを待ち受ける学生ボランティア数人と機材を担当するスタッフ、アシスタントが常駐しているが、誰もが皆、実に生き生きとしているのが、放送内容からも伝わってくる。

「毎週この時間はここに来ている」という学生は、「履修を希望していた遠藤教授の講義が必修科目と重なってしまっただため、必ずここで放送を聞いている。この放送のおかげで、自分のやりたいことがとてもよく見えてきた」と話し

てくれた。
遠藤氏が大学の話題に併せて話すのは、人間性の基本である「心のおしゃれ」。学生にはそれが自然に伝わっているようだ。

現在、特色を持ったユニークな大学が数多くあるが、その中身が本当に学生に浸透し、自然に引き込まれる勢いのあるこのような大学こそ、本当の魅力ある「大学」であるような気がする。

「ザ・ラジオ」心のコミュニケーションを大切に」。この放送タイトルが今後、東北から全国へ発信されれば、「心のおしゃれ」を楽しむ学生が増えていくだろうと確信する。



東北芸術工科大学は平成四年、山形の地に芸術とデザイン四年制大学として開学した。

設立から十数年という年月の中で大学が生み出した産物は、地域へそして全国へと発信され、さらに進化を続けている。

「芸術」と「工学」が融合した質の高い研究は、大学と企業との繋がりの中で、一般市民が実に目にすることの多い



商品やデザインとなり、完全に地域に密着している。そして、この産学連携による成果物は身近でかつ幅広いものとなって日常生活の中にあふれている。

これらの基本となる「この大学でなければできない研究」は、学内に東北文化研究センター、文化財保存修復研究センター等、共同研究機関の設立により、研究の深まりをますます大きくし、芸術的研究が東北・山形の地から日本全国に発信されるに至っている。

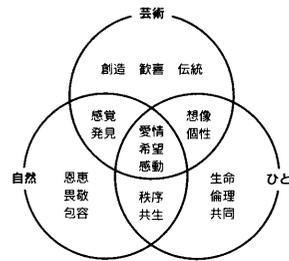
そして、さらに全国初の研究で注目を集めている「こども芸術大学」がある。

「こども芸術大学」は学生が幼児教育を学ぶ大学ではない。幼稚園のような幼児施設でもない。文字通りこどもが通う大学だ。正式には親子ともに学ぶ「こどもとお母さんのための芸術大学」である。今春、国内初の芸術系幼児教育機関として開学を迎え、話題を呼んでいる。

設立の原点は、「芸術」による人間性と環境の再生にある。

科学技術等の発達により、歪んでしまった現代を修復できるのは「芸術」である。「芸術」こそが国・民族・人類の文明を取り戻すことができるという。

こども芸術大学の学びの世界

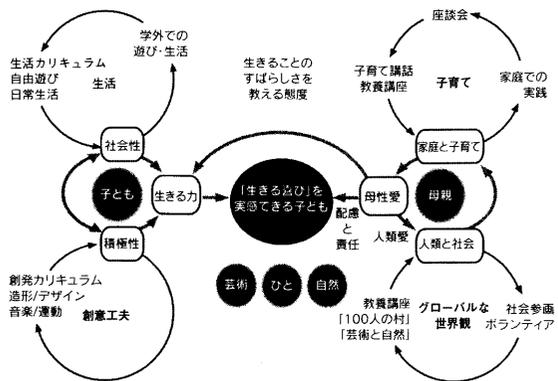


そして、日本の再生を図ることができるのは、乱開発されていない東北・山形の地が何より「芸術」の研究拠点として相応しいらしい。

本格的に「芸術」を学べるのは、大学に入学してからというのが一般的だ。よって、「芸術」はある程度の年齢になるまで学ぶ機会がほとんどないのが現状である。芸術教育の一貫性を考えると、幼児期からの芸術への取組がいかに重要であるかという視点へとたどり着き、それが研究のきっかけだと伺った。

また、ここでは、「こども」のみならず、こどもにとつての絶対的存在である「母親」の教育も同時に。「家庭と子育て」「人類と社会」につ

こども芸術大学の教育のしくみ



いて、こどもの成長に必要な配慮と責任の意識、生きることのすばらしさと教える態度を、授業としてカリキュラムとして学習する。

授業には一般の学生も参加する。スタッフとして学ぶ学生は、ここでの様々な活動が自分の芸術的発想力を豊かにし、これまでの自分の才能にも発展性があることを知ったという。まさに相互に有益な授業環境である。

研究成果は定期的に開かれるワークショップ等で地域を含む外部へと公開されている。

幼児から研究者まで、幅広い年代にわたる「芸術」の研究が山形の地から発信される東北芸術工科大学は今もますます進化している。

東北発、国内初。タイプの違う二つの大学に共通する「取り組みや成果を広く公開し、人の心に優しい大学」は、本日も東北から「魅力」を発信している。

